

船本弘毅教授記念号によせて

社会学部長 牧 正 英

船本弘毅先生は、1957年4月関西学院大学神学部から始まり、1998年4月東京女子大学の学長に選任されるまで、41年間に渡って関西学院の教育と研究に、そして、関西学院大学社会学部の宗教主事として、また、関西学院大学宗教主事、同宗教総主事として、関西学院の宗教活動の中心的存在としての役割を果たしてこられました。社会学部一同はこれらの点に関して深い感慨を覚えるとともに、船本弘毅先生に対して今感謝の念に満たされております。今後は関西学院大学名誉教授として関西学院や社会学部の発展にお心をかけていただくこととなります。

船本弘毅先生は、1947年4月関西学院中学部入学以来、1950年同高等部、1953年関西学院大学神学部、1957年同大学院神学研究科と一貫して関西学院で学ばれました。そして、1957年4月関西学院大学神学部助手補から、1959年4月同大学神学部助手、1964年9月関西学院中学部宗教主事を経て、1970年4月に関西学院大学社会学部宗教主事（助教授待遇）に就任し、そして、1976年4月関西学院大学社会学部教授、宗教主事となり、1998年4月東京女子大学の学長に選任されました。これらのことをあわせてみますと船本弘毅先生は実に51年間関西学院におられ、正に生粋の関西学院生として学院に育たれ、そして、教育・研究と関西学院の宗教活動の要として役割を果たしてこられたといっても過言ではないと思われます。また、この間、船本弘毅先生は、社会学部宗教主事として学部礼拝の充実に心血を注がれ、学部宗教教育委員と学部長を中心とする社会学部全体の支援態勢を確立され、他の学部に見られない多数の学生の参加する礼拝を進めてこられた功績は非常に大きいものがあります。

先生の学部を超えた活動としては、1975年から1976年まで関西学院大学・学長付として、また、1986年から1990年までは国際交流担当の学長補佐として、さらに1990年4月から1年間、国際交流部長として、社会学部の国際交流は勿論のこと、本学の国際交流の進展の中核的な働きをされてこられました。

さらに、船本弘毅先生は、とくにキリスト教学校教育同盟において、本大学と学院の枠を超えたその活動は広く国の内外に及び、長らく中心的役割を果たしてこられました。すなわち、教育研究委員会全国委員長、大学部会委員長の重責を10年以上に渡って担ってこられました。このたび、冒頭に記しましたごとく、歴史ある東京女子大学の学長に選任さ